

# 自然体験 子育て世帯に好評

## 浦河「親子ワークショップ」1年

【浦河】都市部に住む人が仕事と休暇を兼ねて町内に滞在する際に認定こども園などに子どもを預ける、町の移住体験事業「親子ワークショップ」の開始から1年がたった。2023年度は14組の親子51人が利用した。町内で子どもを受け入れるのは、認定こども園「浦河フレンド森のようちえん」(東町かしわ4)。自然体験を重視する同園の教育が好評で、町は「良いスタート。今後も子育て世帯に浦河の魅力を感じてもらい、移住につなげたい」と話している。

親子ワークショップ事業は、町外から人を呼び込み、移住者や関係人口の創出につなげようと、町が22年度の試行に続き、23年4月から本格的に開始。町や民間が運営する移住体験住宅に1〜3週間ほど滞在して、保護者はテレワークを行うほか、乗馬体験などの観光を楽しみ、子どもは認定こども園や、併設する小学生向けのオルタナティブスクール「フレンド森のがっこう」に通う。

### 14組利用 「伸び伸び過ごせる」

うでは2人を受け入れた。同園は、園舎に隣接する森で遊んだり、飼育する馬とふれあったりするなど、自然体験中心の教育で注目を集めている。参加した保護者からは「都会では味わえない体験ができる」「子どもの主体性を重んじる教育方針が良い」などと人気があり、「保育園留学」を手掛ける東京の企業が提供する情報などを通じて、英国やシンガポール人家庭の利用もあった。

親子ワークショップでシンガポールから訪れたリム・ステラさん(36)は2月下旬から1週間滞在し、長女アリスタちゃん(5)と次女アリッサちゃん(4)を同園に預けた。「自国では子どもが自然の中で遊べる空間が少なく、勉強に力を入れすぎている。ここは子どもの意思を尊重し、伸び伸びと過ごせる環境が良い」と満足そう。

同園の伊原康史理事長は「町外や海外の子どもが来てくれることで、多様性が生まれ、園児にも良い刺激となる。受け入れに協力し、地域の活性化にも貢献していきたい」と言う。

町は24年度から、レンタカー代などの助成も新設。同推進室の担当者は「夏場に予約が集中しがちなので、通年で参加してもらえよう、プログラムの改良やPRの強化に努めたい」と話している。(和田樹)

浦河フレンド森のようちえんで昼食を食べるアリスタちゃん(右端)と妹のアリッサちゃん(右から2人目)

